

## 文化・芸術

### 「立つる像」

1942年、油彩・カンバス  
162.0cm×130.0cm  
(神奈川県立近代美術館蔵)

松本竣介 (1912〜47年)

松本竣介の代表作という中には、必ずこの作品の名があるでしょう。

その画面サイズだけではなく、戦争という時代に生きた画家の「等身大」といえる立ち姿です。これは、太平洋戦争が勃発した翌年に描かれた、松本竣介の自画像になります。高田馬場周辺と思われる、戦争中のすすけた背景に立つ、どこか視点の定まらない人物像。正確なデッサンと透明な絵の具層を重ねるグラッシの技法を用いて、静謐(せいひつ)さをたたえた画面となっています。竣介はこの時期、大画面での人物像を連続して描いています。これら一連の作品は、単なる人物画ではなく、構想画であったといえます。

大川美術館企画展から

普段は神奈川県にあるこの作品。現在は桐生でご覧いただくことができます。そしてこの作品を前に、竣介の次男・松本莞(かん)氏と当館館長による対談を20日に開催します。ぜひこの等身大の姿を間近に感じながら、語り継がれる松本竣介という画家の人生や創作の内面に思いをはせていただける幸いです。

(池田)

〈名画の扉〉

